

楡の会発達研究センター報告、その32（2014年1月）

顔の絵を上下逆に上手に描いた広汎性発達障害の女兒

楡の会こどもクリニック

石川 丹

初めに

広汎性発達障害の人は周りの人がびっくりするくらいの特技才能を発揮することがある。

本稿では人の顔を逆さにさらさらと上手に描くという特技を3歳5ヵ月から約1年間に渡って発揮した広汎性発達障害の幼児の発達について述べる。

3歳7ヵ月の時の逆さの顔の絵はグッドイナフ人物画知能検査によれば知能指数113であった。一方、当時の新K式発達検査の発達指数は59であったので、本例の逆さ顔描画は極めて優れた才能と言う事ができた。

遊びを通じて正位の身体図式に慣れ親しむとともに他者視点という認知機能が発達し、正位の人物描画へと正常化発達した。

本稿に紹介する女兒は在胎40週体重3580gにて出生し、独り歩きは1歳2ヵ月、初語は1歳11ヵ月に「あーよう（おはよう）」であった。

2歳2ヵ月齢の状態；

言葉の遅れがあり、二語文はまだなかったが象を「パオーン」と言う事は出来た。これは本児が好きなビデオに出てくる象がパオーンと鳴くことに由来する擬声語で、例えば犬を「ワンワン」と言う擬声語と同じ種類である。

誰に対しても「パパ」と言っていたが、これを過剰般化と言い、父は大人だから父以外の大人もみんな「パパ」と言ってしまう智恵がある証拠なのである。

飲む振りをする、リモコンを電話に見立てる、咳をしたふりをして母に背中を撫でさせる、などごっこ遊びは年齢相当であった。この点は動作で表現する智恵は年齢相当の発達を示していたが、言葉で表現する智恵の発達は未熟である事を表していた事に成る。

その時によって何かを片手に持ちながら遊ぶ。何かを1箇所にした状態であると遊びを続けられない。思い通りにならないと頭打ちがある。母が居る事

を確認してからする。今まで無かった母子分離不安が強くなり、母がトイレに行く時も付いて来る。指差しは可能となった。母が糸巻き巻きを歌うと手遊びをする。自発的バイバイは可能。

遠城寺式検査では発達指数 60 (全身運動 78, 手の運動 68, 基本的習慣 60, 対人関係 52, 発語 52, 言語理解 52) であった。

3 歳 3 ヶ月齢の状態；

「パパあっち」「お菓子ちょうだい」など二語文を発するようになった。CD を聞く時まずは母に操作させ二回目からは自分です、お気に入りのシャツを同じ場所においてから就床する、など本児なりの決め事を発揮していた。

新 K 式発達検査では発達指数 59、発達年齢 1 歳 11 ヶ月であった。

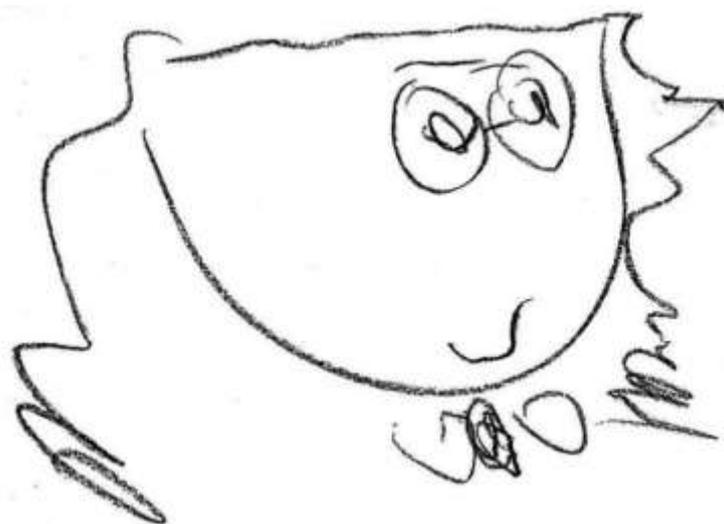
3 歳 5 ヶ月；

絵本は逆さにして見ている。お友達やキャラクターの女の子の顔を上下逆に描くようになった。発語は「こちわ (こんにちは)」「パパ会社行く」「これ描いて」「取ってよ」など増えた。ままごとで弁当を作る。癩癩を起こして物を投げる事があった。

3 歳 7 ヶ月；

外来受診時、お絵描きが得意と言う事であったので筆者が「お友達の顔を描いて」と促すと、さらさらと上下逆向きにお友達の顔を描いた。

あごとほっぺを紙の中央に書いたので頭が寸詰まりに成っている。ここでは正位に戻して呈示してある (下の絵)。



髪の毛、眉毛、眼、眼鏡のレンズ部分、口、ブラウスの襟が描かれており、

グッドイナフ人物画知能検査では知能指数 113 であった。

遊びでは一人二役する。帰りの会の真似を一人でする。絵の具遊びは嫌がらず自ら身体に塗って遊ぶ。

3 歳 9 ヶ月；

友達の顔をなお逆に描くが、色を塗るようになった。

3 歳 11 ヶ月；

思い通り行かないと泣き叫ぶのが 1 時間から 30 分に短くなった。「～みたい」と比喻を言うようになった。順番待ちできず、バスを降りるのも、物をもらうのも一番でないと怒る。一人のお友達に付きまとうようになり「遊ぼう」としつこく誘う。泣き叫ぶ時その子が誘ってくれると切り換えが出来るようになった。

4 歳 1 ヶ月；

顔の描画はなお逆である。お茶の時間に自分に配られたコップでは飲まず、お友達が飲んだコップをもらってそれで飲む。給食の時、「バクって」（交換して、という意味の北海道弁）と言ってお友達と箸を交換してから食べる事があった。朝、起きて母が居ないと捜すようになった、など対人志向が良くなった。

4 歳 2 ヶ月；

絵本はなお逆さにして見ている。

4 歳 3 ヶ月；

絵の具遊びでは手の平や足の裏に絵の具を塗って手型足型を取って見入っていた。言葉に詰まったり、どうして良いか分からない時「リロリロ」と言って自らを落ち着かせる。

4 歳 4 ヶ月；

頭、胴体、左右の手足など人体パーツを紐でつなげて作る紙人形をスムーズに完成させた。人間の全身の身体図式認知を持っていることが示唆された。

小さい子、縫いぐるみの面倒を見るようになった。明日の事を聞いたり、昨日の事を話すようになった。

4 歳 5 ヶ月；

塗り絵を上手に塗るようになった。

4歳6ヵ月；

新K式発達指数は70に伸び、発達年齢3歳2ヵ月となった。人物完成課題では眼、耳、髪、足、腕、手は書き足すことが出来ていたが、眉毛と首筋は書き加えられていなかったため、この課題に関する発達年齢は3歳6ヵ月～4歳0ヵ月であった。

4歳6ヵ月；

変装ごっこを好み、スカートを穿いたり、王冠を被っては自分の姿を鏡に映して覗き込み、悦に入っていた。これは自らの身体図式を確認していると推測された。

野外遊びで他児が木につかまっていると、その子の手を取り「つかまってー」と叫んで危険を装っていた。これは見事な創造遊びであり、空想力想像力の智恵が伸びている表れであった。

4歳7ヵ月；

顔の絵は上下普通になった。

塗り絵には一層集中している。思い通り行かなかった時に泣き叫ぶ時間が短くなって来た。友達と一緒に行動しないと気が済まなくなり、友達が早く終わると自分も途中でも止めてしまう。「これ貸して」と母に言わせる。

ごっこ遊びでは「先生、怪獣ね」と役付けできるようになり、その後自分が怪獣に成るなど役割交代も出来るようになった。こうした知恵は通常発達児では4歳になると発揮する。

4歳8ヵ月；

上下普通に頭足人（頭から直接手と足が出た形の人物画、健常発達においては3歳半から4歳半の子が描く人物画）を初めて描いた。

4歳9ヵ月；

塗り絵は全体をきちんと塗りつぶせるようになった。

4歳10ヵ月；

質問を延々と続けるが、同じ質問を繰り返すのではなく、お弁当食べた？何食べた？誰が作ったの？何個食べた？お弁当箱何色？と論理的展開することが可能に成った。これは広汎性発達障害の障害が軽く成った事を意味する。

その日毎にお友達を決めてその子と一緒に事をしたがる。走り回る時は活発

な子、座ってする時は大人しい子を選んでその子と一緒にしたがる。これは時と場所を弁える智恵、即ち分別が発達して来た事を物語り、広汎性発達障害の障害が軽く成った事を意味する。

5歳0ヵ月；

「怖いから、やなの」と理由を言えるように成った。思いが通らず泣く時、お気に入りのシャツを顔に当てられると泣く時間が短くなった。これは自分を慰める手段を見付けられたという事を意味するので、自己コントロールの心の発達が進んだ事に成る。

5歳1ヵ月；

安心グッズのシャツが無くても「お姉さんだからがんばる」と言うようになった。これは言葉で自分を励ませるようになったという事で更に智恵が進んだ証拠である。

田中ビネー検査での知能指数は80になり、精神年齢は4歳0ヵ月となった。

5歳6ヵ月；

やさしい男の子に「どうやるの？」と質問できるようになった。自信が付いたせいでお当番ではないのにやりたがって皆の前に出てしまう。

5歳8ヵ月；

筆者が母に「仲良しはいるの？」と問うと母は「いない」と言ったが、本児は透かさず「いるよ、さやちゃん」と正しく自分の考えを言えるように成った。

5歳10ヵ月；

「悔しいから止めて」「一生懸命やってるんだから言わないで」と他人に依頼できるようになった。これは社会的交渉力つまりコミュニケーション能力の大きな進歩であるので、広汎性発達障害の障害がさらに軽く成った事を意味する。

考察

人の顔を逆さに描くという特技を3歳5ヵ月から4歳6ヵ月までの約1年間に渡って発揮した女兒を報告した。

3歳7ヵ月時の逆さ顔の絵の知能指数は113（グッドイナフ人物画知能検査）に対してDQは59（新K式発達検査）であったので、本例の逆さ描画能力は並外れた才能と言っても過言ではない。

さて、なぜ本例は逆さに描く特技を発揮したのであろうか。

3歳過ぎて絵本を逆さにして見る事を好むようになったことが、逆さ絵描画の第一の要因と思われる。絵本を逆様に見る事を繰り返したため、逆方向のままに脳に入力された情報を素直にそのまま出力したので描画が逆様になったということであろう。

それでは、なぜ逆位が正位に転換したのであろうか。

その要因の一つには、ボディペインティング遊び、塗り絵、人体パーツを繋ぐ工作に興味を持った点にあったと考えられる。

手の平や足の裏に絵の具を塗り手形足型を取って見入っていた事は正位の身体図式認知（自分の体の構造と自分の身体がどういうふうに動くのかが分かる事）の練習をしていたことになる。正位の塗り絵への没頭も人体パーツを繋ぎ合わせる工作遊びも同様に正位の身体図式認知の練習となっていた。こうした形で逆位より正位に慣れ親しんだことが正位に描画するようになった要因であった。

また、ごっこ遊びにおける成り切り遊びに没頭して、他者視点という認知機能が育ち、自己の客体化能力の発達が促進されたことも描画が正常化した一因と考えられたのである。